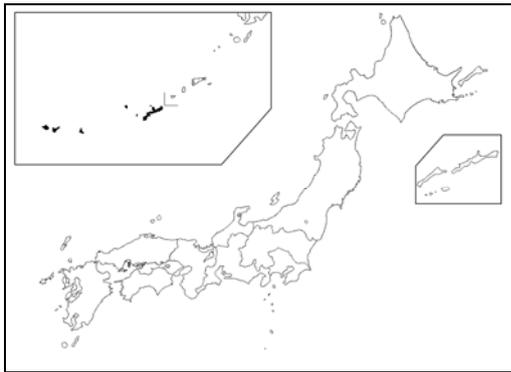


## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 観光は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は増加している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年2月)	今回(平成25年5月)	
景況判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復	
観光	持ち直し	緩やかに増加	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	持ち直しに足踏み	改善の動き	

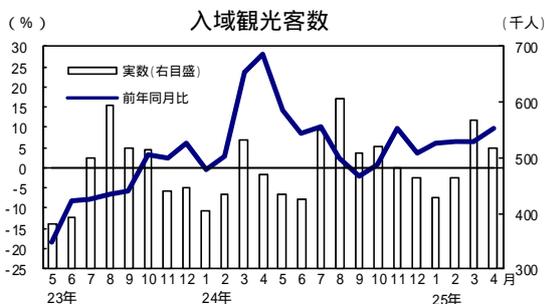
### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は緩やかに増加している。

入域観光客数のうち、国内客については、LCCによる成田・関西からの客数増加に加え、2月はプロ野球キャンプの集客効果、3月、4月は新石垣空港の開港による観光客数の増加により2月から4月の各月において前年同月実績を上回った。

外国客については、航空路線の拡大が続いている台湾・韓国を中心に空路による客数増加に加え、3月より台湾からのクルーズ船が例年より1か月早く寄港をし始めたこと等から、2月から4月の各月において前年度実績を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を上回った。



入域観光客数等の動向

(単位:千人、%)

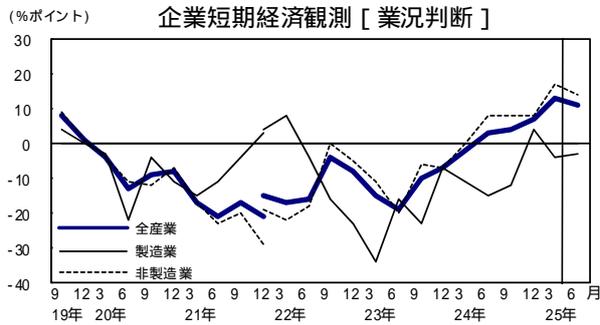
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
入域観光客数	1,665	1,466	1,462	516
(前年比)	3.3	4.5	6.5	9.6
ホテル稼働率	76.1	66.5	75.8	-
(前年差)	1.8	0.7	4.5	-

(備考) 1. 入域観光客数は中総県観光政策課調べ。

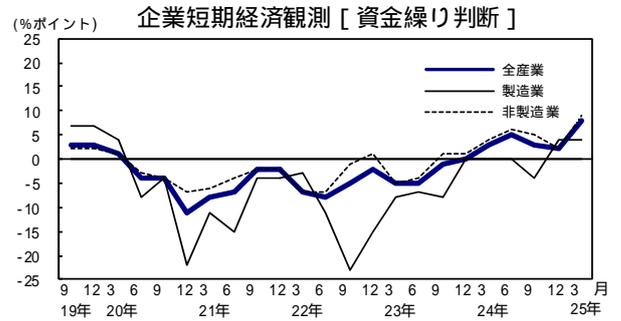
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

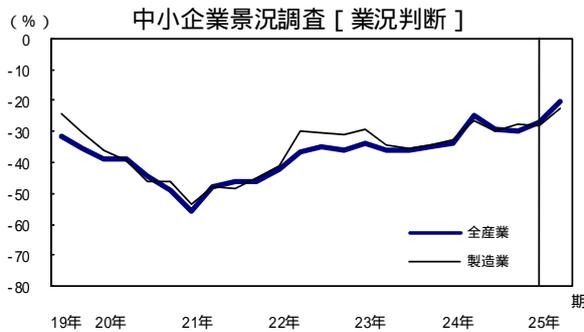
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年6月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。



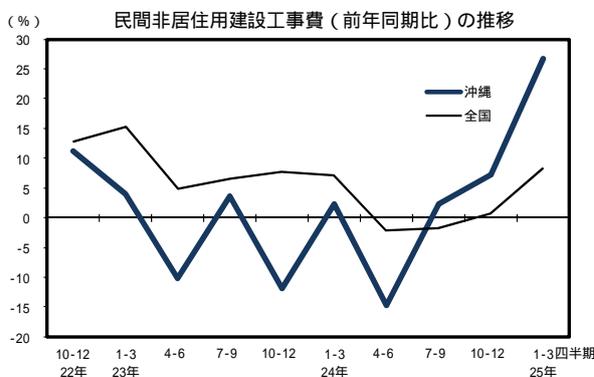
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]  
「取引先の状態が良くなっており、特に建築関連では消費税値上げに伴う駆け込み需要が増加傾向にあり、設備関連の増加も見受けられる(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績見込み	25年度値
全産業	8.2(1.2)	5.8
製造業	28.5( 11.1)	4.1
非製造業	6.0(3.1)	6.0

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.5%増、2月は同0.7%増、3月は同0.6%増となった。

百貨店販売額、スーパー売上高

百貨店は、1月は昨年よりも下旬の気温が高く、衣料品が低調だったこと等から、前年を下回った。2月は催事などにより食料品等が好調だったこと等から、前年を上回った。3月はホワイトデー関連商品の売上が好調だったこと等から、前年を上回った。

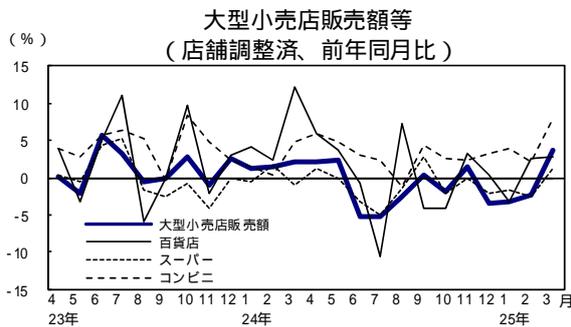
スーパーは、気温が例年よりも高く、衣料品が低調だったこと等により、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

沖縄地域の家計動向関連DIは、54.6となり前月より1.9ポイント低下した。

「前月まで前年を上回るペースで推移してきたが、今月は前年比で80%と落ち込んでいる。

競合他社への乗換えが原因で、消費者がシビアに商品を選んでいる様子がうかがえる (通信会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

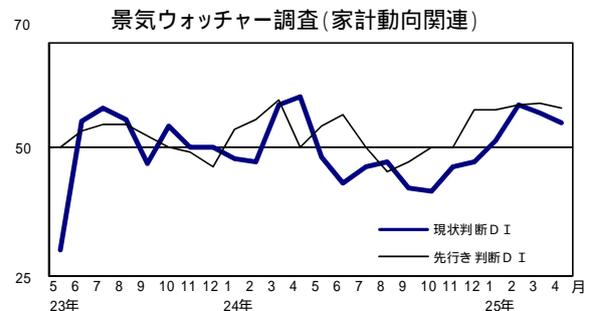
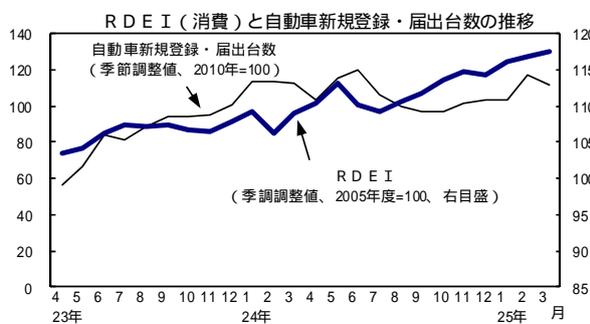


	25年1-3月	25年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	2.2	1.5	0.7	0.6
大型小売店(*2)	0.7	3.1	2.4	3.7
百貨店(*2)	0.5	3.3	2.6	2.7
スーパー(*2)	0.9	1.6	2.5	1.2
コンビニ(*2)	4.8	4.0	2.2	8.0
乗用車(*3)	1.1	7.2	4.0	1.1
(季節調整値)(*3)	9.9	0.6	13.6	4.3

(備考) 1. 季節調整済前月(月)比 (%)

2. 大型小売店は経済産業省調べ(店舗調整済)、百貨店、スーパー、コンビニは日本銀行別荘支店調べ(いずれも既存店) 前年同月(月)比 (%)

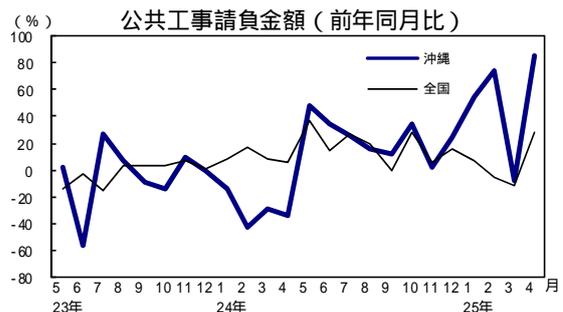
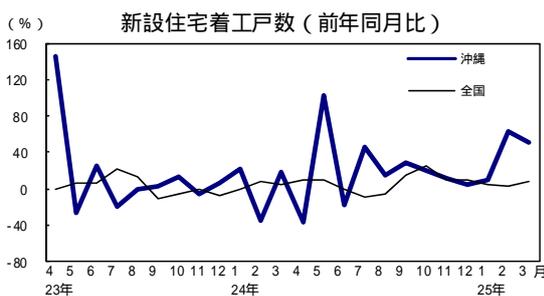
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同月(月)比) (%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

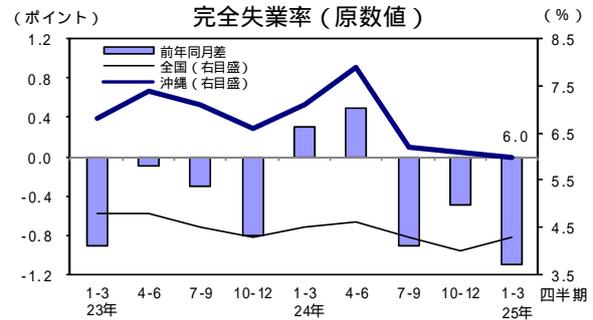
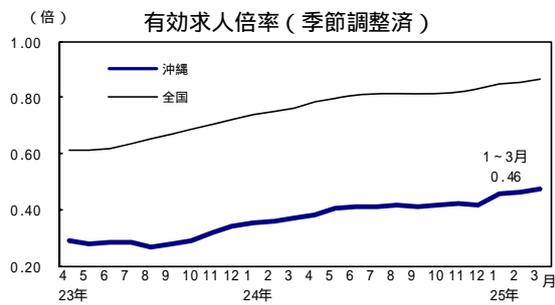


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

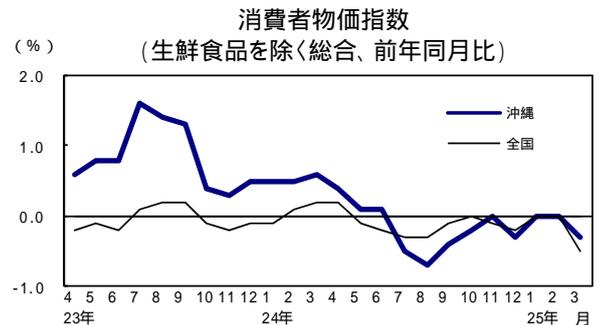
「派遣依頼が今年に入って増えてきたが、特に前月からの増加が大きい。職種も幅広く新規の依頼もある (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年4-6月	7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
倒産件数	16	19	17	16	10
(前年比)	36.0	9.5	6.3	15.8	100.0
負債総額	18	26	23	219	33
(前年比)	40.8	74.8	25.2	449.6	271.5



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・来客数が前年より増加している。外国人観光客、特に中国人が増えている。県産の商品を目当てに買っている (コンビニ)。

<先行き>

・当面は、消費税増税を意識した建築に関する駆け込み需要が増えるとみられる。ただし、来年以降、その反動が怖い (住宅販売会社)。

